

農学委員会土壤科学分科会・Soil Health 小委員会
(第 26 期・第 5 回) 会議 議事要録

1. 日時：2025 年 12 月 2 日（火）16:00-18:05
2. 出席者：矢内純太、波多野隆介、金子信博、川島四郎、西岡加名恵、竹山春子、渡辺京子、犬伏和之、川東正幸、小崎隆、山口紀子、森圭子、若林正吉
欠席：信濃卓郎、藤井一至、小松崎将一、当真要、水田勝利
オブザーバー：森口祐一、清水真理子、前田守弘、木村園子
3. 場所：オンライン（Zoom）による開催
4. 森口祐一日本学術会議環境学委員会委員長による講演および懇談
 - 1) 「環境学からみた土壤－原発事故、気候変動との関わりー」に関する講演
・まず、環境学における「圏」と「際」の重要性が論じられ、その中でも特に土壤の境界領域としての重要性が指摘された。続いて、東日本大震災・原発事故と土壤との関わりについて、災害廃棄物と津波堆積土の問題が概観されるとともに、原発事故による環境汚染における調査対象物質やその移動の複雑さについて論じられ、さらに除染および除去土壤の中間貯蔵・再生利用・最終処分について、現状と課題が詳述された。さらに、課題別委員会「循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会」の議論に基づき今年 10 月 27 日に公表された提言「気候危機に対処するための産官学民の総力の結集－循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への転換ー」について、その構成や内容さらには特徴について概要が論じられた。
 - 2) 「環境学からみた土壤」と「土壤の健康」に関する懇談
・講演に関する質問および意見交換を行った。すなわち、環境問題の実務を担う省庁間のスタンスの類似点と相違点、環境モニタリングの実情と課題、環境関連法を立法化する際の専門家からの情報提供の重要性、肥沃度の高い除染土の利活用の選択肢、陸域環境の中で土壤を捉える際のスケールの問題、提言の具体化における国際的な連携の重要性、提言を取り纏める際のロードマップなどについて、活発な議論が展開された。
5. その他
 - 1) 意思の表出の原稿の取りまとめについて
参加者ほぼ全員から原稿が提出済み。土壤科学・Soil Health 小委員会、IUSS 分科会、植物保護科学分科会の全メンバーで共有し確認後、年内に学術会議事務局へ原稿提出の予定。3 月までの公開に間に合わせたい。
 - 2) 来年度のフォローアップのシンポジウムを検討中。